

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 11:00 ~	第 1 日	女子	一回戦
Aチーム 三重県 四日市商	86	$\left[\begin{array}{r} 28 - 17 \\ 19 - 33 \\ 25 - 12 \\ 14 - 26 \end{array} \right]$	88 Bチーム 静岡県 静岡女子

第1ピリオド、四日市商は激しいオールコートディフェンスから 伊藤(友)の3点シュート、伊藤(裕)のミドルシュートで先手を取り、28-17と11点のリードを奪う。

第2ピリオドは、静岡女子が 杉山のゴール下のシュート、望月の4本の3点シュートで一気に逆転し、前半は静岡女子が3点をリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、四日市商が 伊藤(友)の3連続を含む4本の3点シュートで再逆転に成功し、10点のリードで第4ピリオドに入る。

第4ピリオド、静岡女子は 杉山にボールを集め、井口、望月のシュートで次第に点差をつめ、残り2分を切ってついに同点に追いつく。延長戦かと思われた残り5秒、静岡女子 井口がカットインを狙ったところでファウルを得た。プレッシャーのかかる中、落ち着いてフリースローを2本とも決め、静岡女子が接戦を制して2回戦に進出した。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	杉山秀謙

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 11:00 ~	第 1 日	女子	一回戦
Aチーム 愛知県 桜花学園	113	$\left[\begin{array}{r} 43 - 4 \\ 26 - 9 \\ 21 - 14 \\ 23 - 12 \end{array} \right]$	39 Bチーム 岐阜県 県岐阜商

前半、桜花学園は出足から 塚野、早川のインサイドプレー、ガード陣の3点シュートと怒涛の攻撃を見せる。ディフェンスでも、プレッシャーをかけ相手に思うようにバスケットをさせない。県岐阜商も 柴田(朋)、加藤のシュートで対抗するも、第1ピリオド終了時には、すでに43-4と一方的な展開。

桜花学園は第2ピリオドから、スタートメンバーを下げるも流れは変わらず、前半は69-13と桜花学園が大きくリードして終了。

後半に入っても、桜花学園はインサイドを中心としたオフェンス、速攻と多彩な攻撃を見せ点差を広げる。結局、桜花学園がスピード、パワー、高さとも相手を圧倒し、113-39のスコアで2回戦に進出した。県岐阜商も次第に相手のプレーに慣れて、加藤の3点シュートや 岩田のドライブなどで粘りを見せたものの、追い上げはならなかった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	下畑耕一

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 12:40 ~	第 1 日	女子	一回戦
Aチーム 静岡県 常葉学園	64	$\begin{bmatrix} 16 & - & 13 \\ 13 & - & 11 \\ 17 & - & 15 \\ 18 & - & 13 \end{bmatrix}$	52
		Bチーム 愛知県 清林館	

常葉学園マンツーマン、清林館3 - 2ゾーンディフェンスでスタートする。常葉学園は 松永を起点にして、杉山のカットイン、土屋のアウトサイドシュートで先制するが、シュートミスが多く突き放せない。対する清林館は 森、玉山のインサイドプレー、川畑、吉村のカットインなどでなんとか追いつがるが、相手の強固なディフェンスを崩せず、互いにロースコアのまま、第3ピリオドまで46-39と常葉学園リードのまま試合が進む。

第4ピリオドに入ると、清林館は 川畑のシュート、今村のポストプレーで6点差まで追い上げる。しかし常葉学園は相手のプレスディフェンスをかわし、速攻で切り返し反撃を許さない。最後はあせりのためシュートミスの続く清林館に対し、常葉学園は 松永、赤池が確実にシュートを決め、接戦に終止符を打った。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	西脇勝己

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 12:40 ~	第 1 日	女子	一回戦
Aチーム 岐阜県 高山西	70	$\left[\begin{array}{r} 22 - 22 \\ 19 - 17 \\ 16 - 14 \\ 13 - 18 \end{array} \right]$	71 Bチーム 三重県 皇學館

試合開始から両チームとも動きがよく、スピーディーな攻防を展開し互角の競り合いとなる。高山西はスティールから速攻に結びつけ、白川、湯口、古本らがシュートを決め、常に先手を取りながら試合を進める。皇學館もセンター 木本にボールを集め、浅野、上山の3点シュートなどで追いかける。第3ピリオド終了時は、高山西が57-53と4点リードして最終ピリオドを迎えた。

第4ピリオドに入ると、高山西の足が止まりミスが目立つようになる。その隙をついて皇學館は 柑子木の速攻、木本のゴール下のシュートなどで逆転に成功する。その後も追いつ追われつの展開となり、残り15秒に皇學館が2点リードの状況で 長谷川がファウルを得て一旦は勝負あったと思われたが、フリースローは2本とも外れる。逆に高山西は残り1秒で 湯口がフリースローを得て同点に追いつくチャンスであったが、2投目が外れたところでタイムアップ。皇學館が接戦を制して2回戦に進出した。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	下畑耕一

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 14:20 ~	第 1 日	女子	二回戦
Aチーム 岐阜県 岐阜女子	76	$\begin{bmatrix} 24 & - & 13 \\ 14 & - & 9 \\ 24 & - & 10 \\ 14 & - & 2 \end{bmatrix}$	34
		Bチーム 静岡県 静岡女子	

岐阜女子マンツーマン、静岡女子2 - 3ゾーンディフェンスでスタートする。立ち上がり岐阜女子は固さが見えシュートが決まらない。しかし、ディフェンスを2 - 2 - 1ゾーンプレスに変え相手にプレッシャーを与え流れをつかむと、宮元のドライブ、岩田のパワープレー、服部のジャンプシュートが決まりだし次第に点差を広げ、前半は38-22とリードして折り返す。静岡女子も杉山のポストプレー、岩崎のドライブで対抗するが、思うように得点を伸ばせない。

後半に入ると、静岡女子はディフェンスを2 - 2 - 1ゾーンプレスにして試合の流れを変えようとする。しかし岐阜女子は広瀬が冷静にボールを運び、服部、宮元の3点シュートでさらに点差を広げ、最後は控え選手を出す余裕の展開で大勝し、準決勝進出を決めた。静岡女子も望月、岩崎の3点シュートなどで追い上げを図ったが、岐阜女子の高さとスピードのあるディフェンスの前に敗れ去った。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	神山元秀

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 14:20 ~	第 1 日	女子	二回戦
Aチーム 愛知県 桜花学園	93	$\left[\begin{array}{r} 23 - 13 \\ 20 - 6 \\ 22 - 15 \\ 28 - 11 \end{array} \right]$	45 Bチーム 静岡県 沼津中央

第1ピリオド、桜花学園は 塚野、早川、田中がシュートを決めると、沼津中央は 富永、神戸はシュートを決め互角のスタートとなる。しかし、桜花学園が徐々にディフェンスのプレッシャーを強めていき、相手の得点を抑えると、速攻を繰り返してはインサイドプレー、リバウンドシュートで確実に得点をあげ点差を広げていく。前半で桜花学園が43-19と大きくリードして折り返す。

後半に入っても、桜花学園は厳しいディフェンスからボールを奪うと、次々に速攻、多彩なコンビネーション、確実なリバウンドで相手を圧倒し、ベンチメンバーを全員出場させる余裕を見せ、2回戦を突破した。沼津中央も 加藤、鷲巣がよくシュートを決めたものの、相手のディフェンスや高さを打ち破ることはできなかった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	下畑耕一

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 16:00 ~	第 1 日	女子	二回戦
Aチーム 三重県 津商業	54	$\begin{bmatrix} 15 & - & 20 \\ 17 & - & 21 \\ 10 & - & 31 \\ 12 & - & 25 \end{bmatrix}$	97
		Bチーム 静岡県 常葉学園	

両チームマンツーマンディフェンスでスタートする。常葉学園は 赤池のミドルシュート、 土屋のアウトサイドシュートで得点を重ね先手を取る。津商業も 樋口のドライブインや3点シュートで流れを作り、追い上げる。

第2ピリオドに入っても一進一退の攻防が続く。常葉学園は 松永のカットイン、 王のインサイドプレーで着実に加点。津商業は 宮田、 服部のカットインで追い上げる。前半は常葉学園が41-32とリードして終わる。

第3ピリオドに入ると、常葉学園が1 - 1 - 3のオールコートゾーンプレスから1 - 3 - 1のゾーンディフェンスを敷くと、津商業の速いパス回しができなくなりリズムが悪くなる。常葉学園はリバウンドを制しては速攻につなげ 松永、 赤池、 杉山、 王が次々と得点をあげ一気に引き離し、勝敗を決めた。

第4ピリオドに入っても流れは変わらず、最後は97-54で常葉学園が準決勝へ進んだ。津商業も 岡本がよくシュートを決めたが、相手のディフェンスを打ち破ることができなかった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	西脇勝己

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦 評

平成 16年 2月 14 日 (土)		会 場 : 三洋電機岐阜スポーツセンター	
開始時間: 16:00 ~	第 1 日	女子	二回戦
Aチーム 三重県 皇學館	46	$\begin{bmatrix} 13 & - & 25 \\ 10 & - & 11 \\ 19 & - & 18 \\ 4 & - & 16 \end{bmatrix}$	70
		Bチーム 愛知県 星城	

星城オールコートマンツーマン、皇學館ハーフマンツーマンでスタート。星城は中川のポストプレイ、中尾のカットインで着実に得点し流れを掴む。皇學館は星城のプレッシャーに押され、なかなかシュートまで至らない。第1ピリオドは25-13と星城がリードを奪う。

第2ピリオドに入ると両チームともシュートセレクションが悪く、こう着状態が続いた。

後半立ち上がり、皇學館は 柑子木が冷静なゲームメイクをしながら、自らもドライブで得点をあげ徐々に点差を縮め、第3ピリオド残り1分で5点差まで詰め寄る。そこから星城は 高松の連続スティールからの得点で再び流れを引き戻し、勢いに乗って 中川のゴール下、中尾のミドルシュートと一気に得点を重ね、ゲームの主導権を握る。要所でディフェンスをがんばった星城が70-46で勝利を収めた。皇學館も粘り強いディフェンスでよく喰い下がったが、最後には力尽き敗れ去った。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	田中昭博